

報 道 資 料

令和2年10月23日（金）

教 職 員 課

小中人事係

係長 太田 圭悟

県立人事係

係長 高木 信行

ダイヤル 0742-27-9844

（内線） 5241・5247

令和2年度奈良県公立学校優秀教職員表彰について

県内の市町村教育委員会教育長及び県立学校長から推薦のあった「奈良県公立学校優秀教職員表彰候補者」について、外部委員7名で構成する「奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会」での選考を経て、本年度下記のとおり15件の教職員及び教職員グループを「奈良県公立学校優秀教職員」として決定し、教育長が表彰することとしました。

記

1 表彰の目的及び趣旨

この表彰は、教職員の意欲の高揚と、学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを対象として実施しています。また、県内の学校の活性化に資するため、表彰実践事例を県内の教育関係者に紹介するとともに広く公表しています。

今年度から要項の改訂により、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員であって、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰する「若手教職員等奨励賞」を設けました。

本県では、平成16年度から奈良県公立学校優秀教職員の表彰式を挙げており、本年度は、第17回目の表彰を行います。

2 令和2年度表彰の概要

(1) 被表彰者数 …… 15件

(2) 被表彰者	……	生駒市立壺分小学校	中田 博久
		川上村立川上小学校	橋 孝泰
		葛城市立新庄小学校	角谷 尚希
		五條市立五條小学校	生田 朝美
		大和高田市立片塩中学校	端無 慎太郎
		広陵町立広陵中学校	山口 佳範
		奈良県立橿原高等学校	湊 葉子
		奈良県立大和中央高等学校	人権・文化部
		奈良県立大淀養護学校	研究部「交流及び共同学習」

【若手教職員等奨励賞】

奈良市立都祁小学校	中 陽佑
生駒市立あすか野小学校	紙谷 淳司
川上村立川上小学校	辻本 舞美
葛城市立新庄中学校	尾方 慎太郎
奈良県立平城高等学校	岩崎 洋明
奈良県立西の京高等学校	富田 晋吾

(3) 表彰式 …… なし（コロナウイルス感染症の状況等を踏まえて）

3 具体的な表彰実践事例（代表4例）

(1) 児童の英語コミュニケーション能力を効果的に育成する指導の枠組みの開発とその運用を行った小学校教諭の事例

小学校英語教育において、従来の一斉指導を中心とした授業の在り方を見直し、児童が学習の主体となるブレンディッド・ラーニング（一斉授業とe-learningでの個別学習などを組み合わせた学習形態）を開発し、それを取り入れた授業を実施することによって、児童は学ぶ意欲を高め、コミュニケーションへの不安を軽減し、自信と意欲を向上させることができた。指導者は、指導に対する不安や負担感を軽減することができた。また、児童のコミュニケーション能力育成に貢献するガイドラインを開発したことで、全ての指導者が容易に授業を実施することが可能となった。

(2) 臨時休業中に授業動画を作成し、配信した中学校教諭の事例

新型コロナウイルスの感染拡大防止策としての休業措置が明け、学校再開後にスムーズに授業を再開することができるようにと、授業動画の作成をした。ネット環境への動画アップと同時に、作成したDVDを全家庭に休業中の課題とともに配付した。生徒の負担にならないよう7～10分間という比較的短い時間の内容とし、復習から入って、例題を中心に具体的に分かりやすいものとなることをこころがけて作成した。約10分間の授業動画を合計16回分作成した。その後、多くの生徒が学習に意欲的に取り組み、深い学びにつなげることができている。また、その作成のノウハウや内容を学校内の教員や他町の学校の教員とも共有し、広く活用した。このことで、一過性のもので終わるのではなく、継続的に運用できるものとした。

(3) 高等学校における「通級による指導」について、高等学校教職員組織の事例

県教育委員会から高等学校における「通級による指導」に関する研究指定を受け、奈良県の県立高校では初めて「通級による指導」を実施した。県内に前例のない指導のため、校内での組織作りや対象生徒の選出方法、そして指導内容等について、校内で検討や研修を繰り返して、「通級による指導」を行った。「通級による指導」は「社会生活」や「ライフマネジメント」といった科目名として設定した。指導は特別支援学校の指導領域である自立活動に相当する内容で、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的に指導するため、コミュニケーションに関すること、自己理解に関すること、生活に関すること等を中心に、生徒の実態によって一人一人異なる指導を行っている。この取組は奈良県モデルとなっており、今後の県高等学校の通級指導を先導していく取組となっている。

(4) 児童が広く世界に目を向けるための手立てとして、外国科教育と文化比較、平和教育、防災教育を関連づけて、学びを推進した小学校教諭の事例（若手教職員等奨励賞）

本教諭は私立中・高等学校の英語教員を経て、奈良県公立小学校教員に採用され、9年目を迎えている。初任7年目から奈良市の中核英語教員として、外国語活動や外国語科指導を先導する指導者的な役割を担うとともに、JICAが主催する持続可能な開発教育にも関心を寄せ、令和元年8月4日から2週間、アフリカのルワンダで研修を行った。

その経験をもとに、平和教育や防災教育といった他分野とも関連させたカリキュラムマネジメントを行い、外国語科教育等の教材開発及び指導法の改善に力を発揮している。複数の教科や分野を横断的に捉え、新たな教材開発を行う力は卓越しており、周囲に与える影響は大きい。